

# 視覚障害学生の職業興味について(Ⅱ)

石田久之

(教育方法開発センター視覚障害系)

**要 旨**：平成八年度視覚障害関係学科新入学生38名において、前年度と同様に、職業興味検査を実施した。簿記事務員、清掃員、消防士、経営コンサルタント、理学療法士、スポーツ指導員の6職種で、学科間の興味の違いが認められた。また、慣習的尺度において、情報処理科の得点が理学療法学科に比し、有意に高い値を示した。これらの結果から、新入学生の職業興味について述べた。

**キーワード**：視覚障害、職業興味、調査

## 1. はじめに

平成七年度の視覚障害関係学科新入学生での職業興味に関する調査では、160の職種の一割程度に学科間の違いがみられた(石田,1996<sup>1)</sup>)。本年度においても、同様の調査を行い、本学新入学生の職業興味について、学科間の違いという視点より検討することを目的とした。

## 2. 調査方法

### 2.1 調査対象

調査対象は、平成八年度筑波技術短期大学鍼灸学科、理学療法学科、情報処理科に入学した38名の学生とした(表1)。

### 2.2 調査日

調査は、平成8年6月に行った。

### 2.3 調査手続き

調査には、VPI職業興味検査(改訂版)を用いた。全盲者や拡大文字を必要とする者には、調査用紙の点訳、或いは、文字拡大を行った。回答は決められた手続きに従って得点化した。

調査方法の詳細は、石田(1996)に示されている。

表1 調査対象

学科	人数
鍼灸	19
理学療法	8
情報処理	11

## 3. 調査結果

### 3.1 職種別の興味

ジャーナリストからはじまる160の職種について、Yes、No、無記入の回答の度数のばらつきが、三学科間で異なるか否かについて検討した。

$\chi^2$ 検定の結果、5%水準で学科間に有意な違いがみられた職種をあげると、簿記事務員、清掃員、消防士、

経営コンサルタント、理学療法士、スポーツ指導員の6職種であった。他に、有意傾向を示したものが、小売店員、相場師、レジ係、税理士、プログラマーの5職種あった。表2は、有意な違いを示した6職種について、残差分析を行った結果である。

簿記事務員については、理学療法学科でYesが少なく、情報処理科でYesが多く、Noが少ない。

清掃員については、理学療法学科で無記入が多く、情報処理科でNoが多い。

消防士については、鍼灸学科でYesが少なく、理学療法学科でYesが多く、Noが少ない。

経営コンサルタントについては、情報処理科でYesが多く、Noが少ない。

理学療法士については、鍼灸学科でYesが少なく、理学療法学科でYesが多く、Noが少ない。

スポーツ指導員については、理学療法学科でYesが多く、Noが少ない。

### 3.2 興味領域尺度と傾向尺度

興味領域の6尺度と傾向の5尺度について、学科間の違いを検討するために、Mann-WhitneyのU検定を行った。

興味領域尺度において、慣習的興味領域について、理学療法学科と情報処理科の間に5%水準で有意な差が示された。平均順位は、理学療法学科が7.00、情報処理科が12.18であった。

傾向尺度については、学科間の違いは見られなかった。

表3は、興味領域尺度と傾向尺度について、それぞれの六つ、及び五つの尺度を属性として、クラスター分析を行い、三つのクラスターに分類した際の、それぞれに含まれる各学科の人数を示したものである。特に、あるクラスターに特定の学科のメンバーが集中するという傾向は見られなかった。

表2 残差分析結果

簿記事務員			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	-.587	.861	-.555
理学療法	-2.280*	1.923	.439
情報処理	2.787**	-2.757**	.205

  

清掃員			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	1.327	-.468	-1.1415
理学療法	.381	-1.735	2.651**
情報処理	-1.831	2.144*	-.910

  

消防士			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	-2.012*	1.373	.647
理学療法	3.352**	-3.214**	.439
情報処理	-.903	1.484	-1.130

  

経営コンサルタント			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	-1.505	1.679	-.555
理学療法	-1.738	.455	1.865
情報処理	3.299**	-2.291*	-1.130

  

理学療法士			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	-2.076*	1.133	1.499
理学療法	3.167**	-2.419*	-1.312
情報処理	-.659	1.006	-.437

  

スポーツ指導員			
回答	Yes	No	無記入
鍼灸	-1.505	1.679	-.555
理学療法	2.968**	-2.924**	.439
情報処理	-1.107	.872	.205

\* p < .05    \*\* p < .01

#### 4. 考察

平成七年度と同様の方法で、平成八年度視覚障害関係学科新入学生に対し、職業興味検査を行った。

職業興味は基本的には個人の問題であるが、教育目標が明確に異なる視覚障害関係三学科においては、入学当初からある程度、職業興味が決まっているのではないかとこの予想から学科間の違いに視点を置いて検討を行った。

##### 4. 1 職種別の興味

本年度の調査において、Yes、No、無記入という回答の度数の分布から見ると、6職種において学科間に有意な違いが見られた。また、5職種について有意傾向が認められた。昨年とほぼ、同じ割合であった。

内容について詳細を見ると、鍼灸学科は、消防士、理学療法士、スポーツ指導員へのYesは少ない。このことは鍼灸学科においてそれらへの職業としての興味は高いことを示しているわけであるが、これに対し、理学療法学科では、それら3職種への職業興味はかなり高く、両学科間の意識の違いがきわだっているといえよう。特に、理学療法士、スポーツ指導員への指向は、理学療法学科への入学目的を明瞭に表しているものである。しかしながら、消防士への指向の強さに関しては、更に、データを蓄積して、改めて検討したい。

一方、情報処理学科では、簿記事務員、経営コンサルタントへの指向が強く見られる。これもある程度、入学目的を表しているものと解せよう。

次に、これらの結果を前年度のものと比較したい。

前年度報告(石田, 1996<sup>1)</sup>)においても同様な主旨での検討を行い、検査項目の一割程度の職種に違いは見られたものの、学科間で大きな違いはないとの結論を得た。

前年度において、学科間に有意な差が見られた職種は、編曲者、無線技師、理学療法士、販売事務員、音楽家、機械技師の6職種であった。

鍼灸学科で目立つ点は、特別な職種への指向ではなく、無記入が多いことである。上記職種の内、4職種にのぼっているが、どちらとも言えないことを示している。このようななかで、理学療法士、及び、無線技師、機械技師へのYesが少ないことをあげることができる。理学療法士への指向の弱さは本年度もみられる一貫した傾向である。一方、無線技師などの理工学系への指向のなさは、本年度は見られなかった。

理学療法学科では、理学療法士のYesが多く、本年度も同様である。しかしながら、編曲者、音楽家への興味のなさは今年度は見られなかった。

情報処理学科では、販売事務員、無線技師、機械技師への指向が強かったが、本年度も事務系については、同様である。しかし、本年度は、技師職への指向は特にな

く、かわって、経営コンサルタントへの指向が見られる。

以上のように、二回の調査ではあるが、一貫する特徴も見え隠れしているようである。今後、調査の継続により、各学科の基本的特徴が、明らかになってくると思われる。

#### 4. 2 興味領域尺度と傾向尺度

職業興味検査では、興味領域尺度は、現実的尺度、研究的尺度、社会的尺度、慣習的尺度、企業の尺度、芸術的尺度の6尺度から構成されている。

今年度の調査では、慣習的興味領域において、理学療法学科と情報処理科との間に、有意な差が認められた。平均順位は後者で高い値を示した。慣習的尺度とは、定まった方式や規則に従って行動するような仕事や活動に対する好みや関心の強さを示す尺度であり、検査手引きには、公認会計士、公務員、プログラマー、事務員などの例が挙げられている。

学科の特徴を明確に表しているものである。

一方、傾向尺度は、自己統制、男性-女性、地位志向、希有反応、黙従反応の5つの尺度からなっている。前年度、男性-女性傾向尺度で、鍼灸・理学療法学科と情報処理科との間に、有意な差が見られたが、今年度については、学科間の違いは見られなかった。

本検査は、特に視覚障害者用に作成された検査ではないが、学科の教育目的と、その学科に入学する学生の職種への指向の検討から、ある程度視覚障害者の職業興味を示しうるものと思われる。しかしながらどの程度まで利用できるのか、ということについては、更に、データの蓄積が必要である。

表3 三つのクラスターに分類した際のそれぞれのクラスターに含まれる各学科の人数

興味領域尺度			
クラスター	A	B	C
鍼灸	16	2	1
理学療法	7	1	0
情報処理	8	2	1

  

傾向尺度			
クラスター	A	B	C
鍼灸	1	4	14
理学療法	2	1	5
情報処理	3	2	6

#### 5. まとめ

二年分の結果ではあるが、回を重ねる毎に、わずかではあるが、それぞれの学科の特徴が現れてくるようである。

理学療法学科の理学療法士への一貫した指向の強さは、入学目的を的確に表し、一方、鍼灸学科の相反する特徴も見ることができる。更に、情報処理科では、プログラマや事務系職業への指向を強く見ることができ、慣習的興味の高さにもこのことが現れている。更に、調査を続ける必要がある。

#### 6. 参考文献

- 1) 石田久之：視覚障害学生の職業興味について。筑波技術短期大学テクノレポート, No. 3, 219-223, 1996.